

▶ファッションで子ども・児童を交通事故から守る◀
文化服装学院 早濑氏・吉村氏 解説原稿
「学生の課外活動や企業とのコラボによる教育」
繊維消費科学／エクスポジションアワードを受賞 !!

当財団と“ファッションで子ども・児童を交通事故から守る”コラボレーションを展開する学校法人文化学園 文化服装学院の早濑千加子専任教授・吉村とも子講師が共同執筆した同コラボレーションを紹介する解説が、一般社団法人日本繊維製品消費科学会(会長:大矢勝氏/横浜国立大学 大学院環境情報研究院 教授)の栄誉ある【解説賞 消費科学エクスポジションアワード】に選ばれました。この解説賞は今年新設の賞で、同ジャンルとして第1回目の受賞となります。

日本繊維製品消費科学会誌では、消費科学に関わる幅広い領域から時代の先駆けとなる製品紹介や教育現場での実践的な取り組みなど繊維に関する様々な情報を解説原稿として多くの会員、読者に提供しています。2018年1月号～12月号までの1年間に掲載された解説原稿は約80編にのぼり、アワードの選考にあたってはこれらが対象となりました。早濑専任教授は、「ニッセンケンとのコラボは今年で3年目となります。子ども用のおしゃれな高視認性安全服を本学学生が制作する取組みに対し、消費科学という観点で関心が高いことが改めて分かりました。今後はこのコラボレーションを生産・流通の皆様にもっと知っていただいて、着衣で子どもを交通事故から守る社会的な意義を繊維・ファッション業界全体で共有できればと考えています」と話しています。



6月29日、奈良女子大学で開催された繊維製品消費科学会・年次大会で表彰式がおこなわれました。前列一番左が早濑専任教授、その右隣が吉村講師。

選考理由／一般社団法人 日本繊維製品消費科学会
テーマ「学生の課外活動や企業とのコラボによる教育」

子ども用の高視認性安全服 文化服装学院による取組み ファッション+αによる社会貢献

本稿は、「デザイン性と安全性の両立」という繊維製品の課題に対して、教育機関が検査機関とともに取り組んだ製品開発の解説である。交通事故の中でもとりわけ多い、歩行中の児童の事故防止の課題に対して、視認性の高い服の普及を目指して取り組まれた制作のプロセス、各々のデザインの説明、成果物に対するメディアの反応を記述し、子供の感性をふまえたデザインの重要性と創造的な製品開発のひとつの在り方を生産者へ示している。すなわち、既成概念に捉われない柔軟な考え方の示唆があり、消費者の豊かな生活と知識の向上に寄与する視点がある。学会の役割である教育的な観点からも解説賞として相応しい内容である。よって第一回解説賞 消費科学エクスポジションアワードを贈賞する。